

ルワンダ

ルワンダと大湖地域の近況

ARC ルワンダ代表の高美穂の報告によると、ルワンダでは、4月1日から7日は、毎年恒例の虐殺哀悼週間なのだそうです。毎年この時期には、悲しみや怒りが蘇り、トラウマが悪化するのです。この行事は止めた方が良くという声も多いとか。チャンネルが一つしかないルワンダテレビは、虐殺特集ばかりで、人々が次々となたで殺される場面、道路に延々と並ぶ死体、頭をなたで割られて路上に倒れているがまだ息があり口をぱくぱくさせている女性、なたで割られた頭を抱えて叫んでいる子供、ゴウゴウと燃える家、いたる所に転がっている死体等が延々と映し出され、虐殺生存者に当時の出来事を語らせたり、ラジオでは虐殺の歌、詩が流されたりしているそうです・・・。

世界がイラクの問題で大騒ぎしている間に、中央アフリカではクーデターが起き、コートジボワールでは内戦と一時停戦、ルワンダとウガンダの間も険悪になり、コンゴ民主共和国では停戦協定が結ばれた矢先に北東部で住民 1000 人の虐殺・・・。イラクの影で注目されない問題こそ、私たちが伝えていかなければ と強く思っています。
(小峯茂嗣・ARC 事務局長)

女性洋裁技術訓練活動

2000 年度、2001 年度を振り返り、訓練生に真剣さが足りないという訓練指導者からの意見があったため、2002 年度は、ARTCF 非会員からも洋裁訓練受講希望者を募りました。また、訓練が無料であったことも訓練生の甘えにつながっている



と考え、今年度の訓練は有料としました。ARTCF 会員は 1,000 フラン(約 250 円)/3 ヶ月、ARTCF 非会員は 3,000 フラン/3 ヶ月と設定しましたが、訓練生の中には、受講料がなかなか払えない者もいます。

訓練は 20 名を 2 グループに分け、各グループが順番に、午前、午後に受講しています。訓練指導者によると、今年度の受講生は昨年度の受講生よりも、ずっと熱心で、覚えが早いとのこと。彼

女自身、非会員を参加させて、訓練をもっと活気づけたかったので、満足しています。これは、訓練が有料になったこと、訓練を受けたい外部の訓練生が参加したことの良い効果であると思います。一方で、外部の人間が参加したことによるマイナス面もあります。ARTCF 会員は、会員になるために様々な条件をクリアーしており、人間の福利を追求するため、行儀や良い行い等同一の規律を持っているのですが、外部者には、それは関係がありません。逆に外部者には、会員と同様の恩恵が無いため、妬み等が生じます。

今年度の訓練生は、このような状況で、訓練生同士の中でも揉め事が発生していたようです。ハサミの取り合いや、ミシンの取り合いといったことから、訓練を欠席した者が別のグループの訓練時間に補習に参加することを拒否するなど、様々です。また、NGO の活動に対する理解の不足か、面接や写真を撮られることを嫌がる、など非協力的な態度を示したり、訓練を受けてもミシンを与えてくれない、と ARC に不満をぶちまけ攻撃的になるということも発生した。これらの問題は、ARTCF コーディネーターが彼女たちを集めて会議をして説明したり、ARC、ARTCF 両者が参加してミーティングを開くなどで、彼女たちが理解出来るよう説明し、かなり緩和されました。

また今年度は訓練資材費が減り、全ての資材を賄えるかどうか分からないので、新しい生地ではなく、中古のシャツなどを市場で購入し、資材費を安くするように努力しています。全ての課題を中古資材で出来るわけではありませんが、当初の練習期間はこれで十分であると思います。

訓練生達の多くは、訓練修了後ミシンをどうやって入手するか、ということで不安を感じています。昨年度の修了生たちは、ARTCF からマイクロ・クレジットを受けられたことを皆知っているため、自分達も受けたいという希望が強くあります。ミシンを無料で寄贈することは、彼等のために良いとは思えないが、せめてマイクロ・クレジットを提供してミシンを購入するチャンスを与えな



ければ、訓練生が不安に感じているように、せっかく修得した技術を忘れてしまうでしょう。実際に、自分でミシンを購入出来る訓練生の数は少ないです。ARTCF のマイクロ・クレジットの原資は、返済された後、また次の訓練生のためのマイクロ・クレジットに充当される予定です。

現在、訓練所拡大の計画が進んでいます。拡大によって、訓練修了生達が独立出来るまで、せめて一年間でも一緒に働けるようにできればと思っています。訓練所は、商業地域にあり、また訓練

生達も通いやすい場所にあるのです。

さて、過去の修了生はその後どうしているかというと、昨年度は、ARTCF が TROCAIRE (アイルランドの NGO) からミシンのマイクロクレジット原資提供を受けたため、ほとんどの修了生がミシンを入手しました。これは毎月 2,300 フラン、20 ヶ月かけて返済するシステムで、元訓練生達はまだ返済をしている最中で、原資が回収されていないため、現在の訓練生にはクレジットが出来ない状態です。ミシンを入手した訓練生は、クレジットの返済が出来る程度に皆収入を得ており、洋裁訓練は役に立っているということです。問題は、市場でレストランの軒先に場所代を払ってミシンを置き商売を始めた修了生たちです。キガリ市の方針で、路上で商売をしている者は、ローカル・ディフェンス (自警団) にこん棒などを使って追い払われるのです。そもそもこの問題のために、多くの ARTCF 会員は収入を得る場を失い、他に収入を得る方法を探さなければならなかったのであるが、ここ (市場) でもまた同様の状況に陥っています。ローカル・ディフェンスの目を盗みながら商売をするため、以前ほど収入が得られなくなった、ということです。

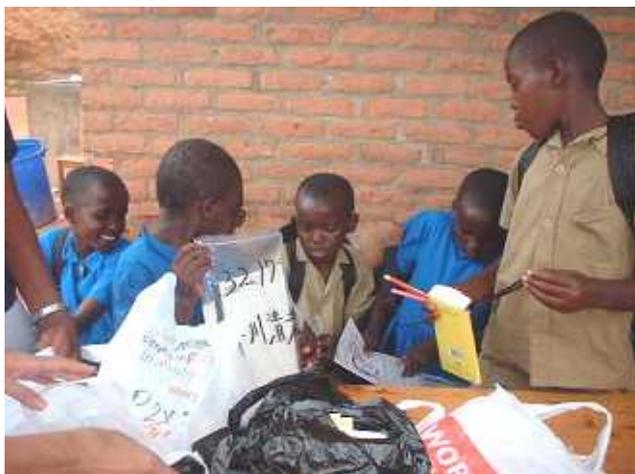
そして訓練所の経営自立化についてですが、現在のところ、訓練所はまだ自立にはほど遠い状態です。昨年度からのテイラーは腕が良かったが辞めてしまい、次のテイラーは腕があまり良くなかったため、顧客からのクレームが多く (間違っただ縫製して生地代を弁償しなければならなかった) 結局やめてしまいました。しかし 3 月から始めた女性テイラーは、紳士服の縫製は出来ないものの、彼女の母の代からテイラーで、色々な収入創出のアイデアを持っています。まず、現在訓練所にあるカタログ (ヨーロッパからのデザインブック、型紙はついていない) は、1996 年度版で古いため、毎年新しいカタログを 1 冊入手して、訓練所に置き、それをもとに縫製したサンプルもアトリエに飾ると顧客を引き付けるだろう、ということです。他に、訓練所に定期的な収入をもたらすため、結婚式のドレス等を飾り、それを貸し出して収入を得るというアイデアが出ています。彼女はウェディングドレスは縫製出来ないそうで、日本の貸し衣装屋などから、中古を寄贈して貰えないか? と言っていました。 (報告: 高美穂)

ARC ルワンダ奨学基金

これまで26人の方から、53口のご支援を頂きました。ありがとうございました。事業の進捗について、ご報告いたします。

【報告】

いくらか基金がまとまった時点で、孤児院AMIDORに行きました。奨学基金が集まっていると言うと、マリアン(代表)は涙をこぼし始めました。じつは今(3月)2学期に入っているのですが(ルワンダの学期は9/1~翌年8/31)彼女は今学期の学費がまだ払えず、子供たちは先生にいつ学費が払えるか聞かれて帰ってくるし、マリアンは心をいためていたのです。孤児がまた増えたので、公立小学校就学児童は現在35人ということです。他に、9人がアドベンティストの小学校に無料で通わせて貰っています。以前調べた時は、一学期につき2000フランだったのですが、マリアンに聞くと、孤児なので学費がいくらか免除になり、一学期1500フラン、二学期1000フラン、三学期1000フランで、合計は3500フランです。一学期の学費もまだ払っていないそうで、実



は最近学校側から学費が払えないなら学校に来ないよう言われていたそうです。

マリアンは、「子供たちにはいつも、『自分達も

他の人に助けて貰っている、だから、自分もまた別の人達を助けることでお返ししないとイケない』と話している、私は種を蒔いているんだ(このようにして助けの輪が広がっていく)』、とっていました。

また4月7日は祭日(虐殺記念日)だったのですが、学校の春休みでもあり、AMIDORに行くと、支援をいただいている子どもたちに、奨学基金から文房具を配布しました。これより少し前に、青森県立黒石商業高校の皆様が文具を贈ってくださったのですが、それも配布しました。



(報告：高美穂)

【これから】

今後、公立の初等学校の学費に関しては、全面的に政府が負担することに決まったのですが、ARCルワンダ奨学基金では、皆様の支援金の内、学費に充てていた部分を、支援していただいている子どもたちの学用品等に充てていこうと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

ARCルワンダ奨学基金にご寄付くださった方々(2003年2月1日~3月31日現在。敬称略。)

ありがとうございました！

- 15口 内山博邦(5人×3年)
- 2口 安福聡子(2人×1年) 寺本勝(2人×1年)
- 1口 高司あい(1人×1年) 福原智子(1人×1年) 茂理保平(1人×1年)
中島太一(1人×1年) 佐藤さやか(1人×1年) 上島一晃(1人×1年)
伊藤智美(1人×1年) 鴨沢律子(1人×1年)

「ARCルワンダ奨学基金」とは

1口 8000円の支援金で、ルワンダの子ども1人が1年間学校に通えます！
あなたの支援している子どもの写真があなたのもとに届きます！

支援金の内訳は・・・

年間授業料：約 1,800 円（6,000 ルワンダ・フラン）

文房具：約 600 円（2,000 ルワンダ・フラン）

制服：約 900 円（3,000 ルワンダ・フラン）

カバン：約 900 円（3,000 ルワンダ・フラン）

その他：送金手数料、フィルム代、現像代、郵送費などの事務経費

（* 支援対象となる子どもたちは、現地の孤児院などの支援団体と協議の上、決定いたします。）

支援金のお振込は

郵便振替口座番号

00250-2-57833

口座名義人

アフリカ平和再建委員会

* 通信欄に「ルワンダ奨学基金」

とご記入ください

ARCの活動へのご協力をお願いします！

ご入会のおすすめ

ARCの会員になると・・・

- ・ニューズレター「Peace Building」の購読ができます。
- ・ARC主催の報告会・シンポジウムへ無料参加できます。
- ・今後設置予定の「ARCアフリカ紛争研究会 仮称」への出席、報告の資格を得られます。
- ・会員用メーリングリストへの参加資格を得られます。意見交換、情報交換が可能。
- ・ARCが保有するアフリカ紛争に関する資料の閲覧や、現地の情報を照会できます。

資料請求

- ・無料でお送りいたします。お気軽にお問い合わせください。
- ・電話 045-439-4003 E-Mail intrband@gol.com

寄付のお願い

ARCの活動にご賛同くださる方の寄付をお待ちしております。海外での活動報告をお送りします。

振込先 郵便振替口座番号 00250-2-57833
名義人 アフリカ平和再建委員会

ARCルワンダ事務所メールマガジン〔無料〕

ARCルワンダ事務所より、遠くて遠いルワンダのことをもっと身近に感じて頂くためのメール通信を開始いたしました！どなたでも登録すれば御覧になれます。

登録はこちらから！ <http://www.egroups.co.jp/group/arcrwanda>

アフリカ平和再建委員会（Africa Reconciliation Committee: ARC）

〒222-0026 神奈川県横浜市港北区篠原町2816-22

Tel：045-439-4003 Fax：045-439-4004

E-mail：intrband@gol.com ホームページ <http://www2.gol.com/users/intrband/arc>

